

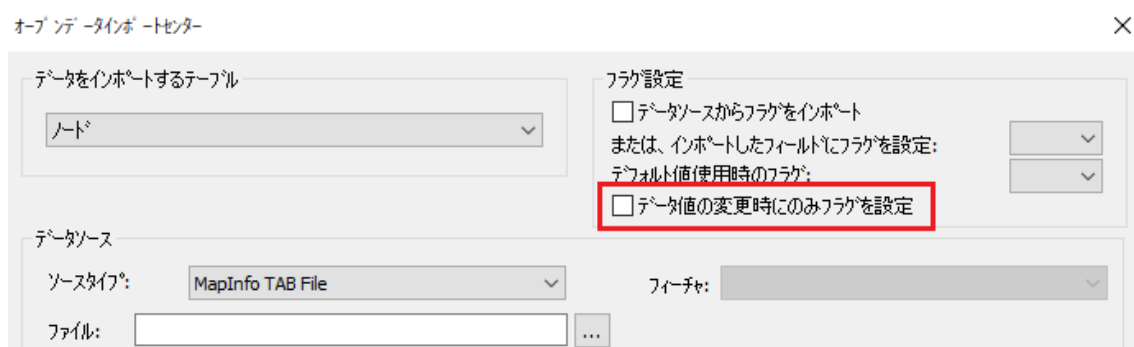
# 新機能リスト

このページでは、以前のバージョンでは使用できなかった、InfoWorks® WS Pro 2023.2 に新しく導入された追加機能、改良点を全て説明します。

バグの修正に関する詳細は [リリースノート](#) をご覧ください。

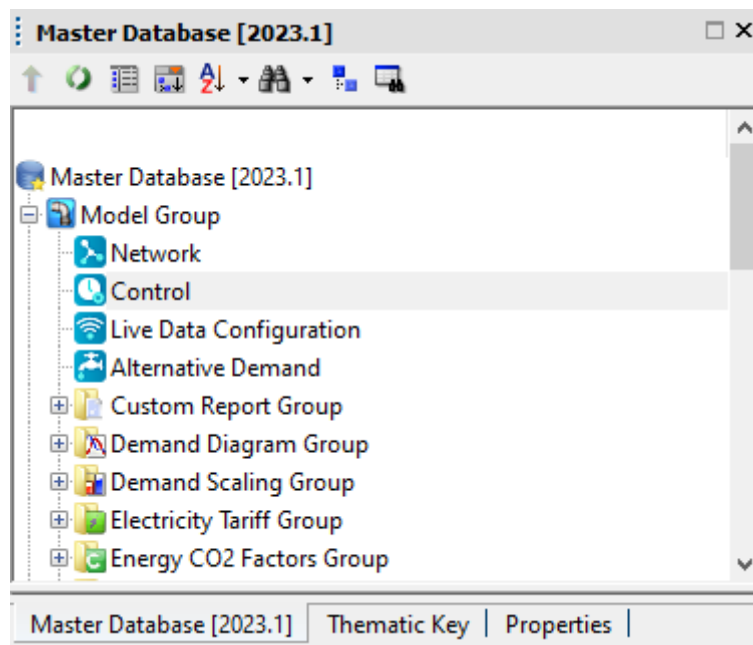
## オープンデータインポートセンターに新オプションが追加

新しいオプション **データ値の変更時にのみフラグを設定** が **オープンデータインポートセンター** ダイアログに追加されました。このオプションをチェックすると、入力される値が現在の値と表示精度を超えて異なる場合にのみ、フラグの値が変更されます。これにより、新たに変更された値の内、設定パラメータを満たすもののみが追跡されるため、不要なフラグの変更が最小限となります。



## ツリービューとモデルグループウィンドウのタイトルバー表示を改善

「マスターデータベース」とバージョン番号を表示するため、ツリービューや **モデルグループウィンドウ** のタイトルバー表示が短くなりました。これにより、矢印をクリックすることなく、全てのタブを素早く確認することが可能になりました。



## システム検証機能の強化

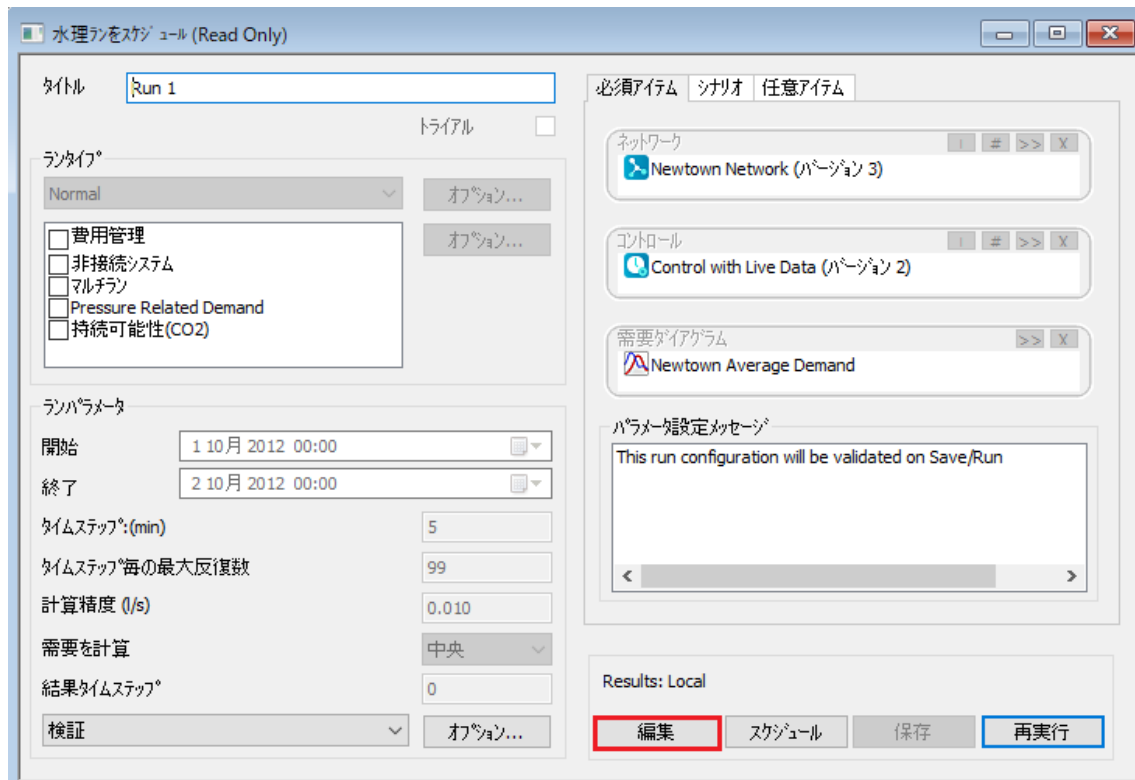
---

**ランコントロールウィンドウ** の検証システム機能が強化されました。検証時に適切なエンジン、Marshaller、エージェントのバージョンを見つけることができない場合など、システム内で検出されたエラーをより詳しく説明するレポートを作成されるようになりました。

## 水理ランスケジュールダイアログに編集ボタンを追加

---

**編集** ボタンが **水理ランスケジュール** ダイアログに追加されました。クリックすると、ランを編集することが可能となります。これにより、プロジェクトの要件に応じてシミュレーションの編集や再実行を行うことが容易となり、結果の比較や分析にも便利です。



水理ランスケジュールダイアログのサイズが調整可能に

**水理ランスケジュール** ダイアログのサイズを変更することが可能になりました。拡大・最大化が可能です。また、ダイアログのサイズを小さくすることも可能であり、その場合はスクロールバーが表示されます。ボタンなどのダイアログコンポーネントのサイズやレイアウトは変わりません。

重要リンク分析オプションの改善

**重要リンク分析オプションダイアログ** に対していくつかの修正を行いました。

- **Discard time varying results** チェックボックスが **Retain only criticality** の代わりに導入されました。
- **Criticality grades** を決定する際に使用する基準を設定するため、Criticality criteria options ボタンが導入されました。
- **Service Level Summary report** に使用する設定を変更するため、**Service level report options** ボタンが導入されました。

重要リンク分析オプション

分析に含めるリンクを選択:

選択リスト

分析基準:

最小水圧:

最小水圧 (m) 10

継続時間 (mins) 30

最大水圧:

Maximum Pressure (m) 90

イベント需要効率:

実/公称需要 (%) : 0

失敗のカウンタタイプ:

☒ ノード

☐ 顧客ポイント

☐ プロパティ

☐ 合計接続数

次の値未満を無視: 1

分析から除くノード:

選択リスト

単一管、あるいは孤立エリア

☒ 各テストにて単一管を開じる

☐ 各テストにて孤立エリアを開じる

リンク停止期間:

☒ シミュレーション全体

☐ ネットワーク需要のピーク時に開始

☐ 開始: 1 10月 2012 00:00

停止期間 (分) 120

☐ 停止期間終わりまでをレポート

漏水オプション:

☐ リンク停止に漏水(破裂)を含める

100mm 管の 50m水圧での漏水流量 (l/s) 1

漏水継続時間(分) 60

☐ 漏水期間中の管流量を許可

☐ Discard time varying results

Criticality criteria options ...

Service level report options ...

20 スロット毎のテストケース(並列処理)

OK キャンセル

重要リンク分析の実行中に Service Level Summary を準備することが可能に

重要リンク分析 (CLA) オプション では、CLA の実行中にデフォルトの [service level summary](#) を準備することが可能となりました。このデフォルトの service level summary は、より迅速に作成されます。デフォルトの service level report の設定は、CLA のものと同じです。

Use display precision 機能がデフォルト設定に

Compare Object ダイアログ 内の **Use display precision** チェックボックスがデフォルトで有効になりました。この機能は、プロパティシートやグリッドに示された精度レベルよりも小さな差分を無視します。

Compare Object

×

Object: Newtown Network

Show differences

☒ My not yet committed changes

☐ Differences from another object:

Show

☐ Select changed objects

Options

☐ Ignore flags

☐ Ignore defaults

☐ Ignore Unique IDs

☒ Use display precision

Scenario(s) to compare

☒ Named Scenario:

Base

☐ All Scenarios

Output

☒ Screen (HTML)

☐ Text file

☐ CSV file

☐ None

Only compare these objects

選択リスト

# >> X